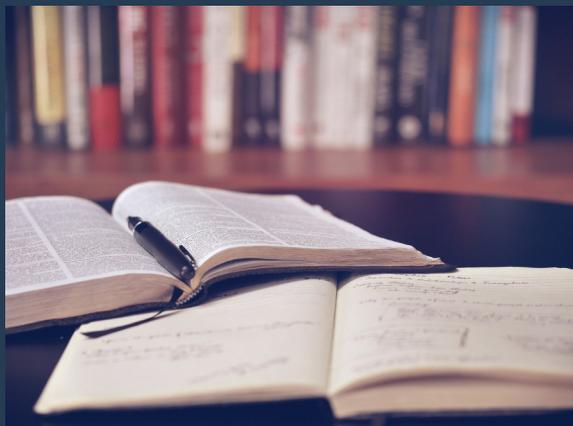


リーディングセミナー

読書を通して得られるのは、知識だけではありません



参加費
無料

リーディングセミナーでは、

- テキストの構成やポイントを考えながら読む力
- 自分が面白いと感じる感性
- 著者の主張の妥当性を考えながら読む力
- 他人の意見を聞き、それを尊重する力
- 他人のよさを理解しながら、グループワークをする力を培います

リーディングセミナーでは、近年、大学界限において話題の、高校生向けに書かれた（または高校生にも考えて欲しい）、新書や文庫を1冊、取り上げ、参加者で読書体験を共有します。

参加者間で、重要だと思った点、疑問に感じた点、面白いと思った点などについて意見交換したうえで、本書の紹介文を作成します。これらを通して、テキスト、そしてその学問的背景についての理解を深めます。ひとりの読書もいいですが、読書体験を共有する楽しさを、ぜひ、感じ取って下さい。参加に当たり、事前にテキストを読み、簡単な課題に答えてもらいます。

大学の授業（特に、ゼミナール形式で開かれるもの）では、このように1冊のテキストを読み合い、議論する（輪読する）ことがあります。大学らしい学びをいち早く体験してみませんか。

◆日時（2023年8月開催）

<第4回> 2023年8月21日(月) 14:00-17:00

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学：データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』（光文社新書、2019）

<第5回> 2023年8月23日(水) 14:00-17:00

全卓樹『銀河の片隅で科学夜話：物理学者が語る、すばらしく不思議で美しいこの世界の小さな驚異』（朝日出版社、2020）

<第6回> 2023年8月25日(金) 14:00-17:00

塚崎朝子『世界を救った日本の薬：画期的新薬はいかにして生まれたのか？』（講談社ブルーバックス、2018）

◆開催方法

ハイブリッド開催（対面とオンライン）

対面：金沢大学角間キャンパス（教室は、KUGS 高大接続プログラムポータルサイトにて、お知らせいたします）

オンライン：事前登録者に、Zoom URL をお伝えいたします

◆対象

高校在籍者～既卒2年者（高校1年生も歓迎いたします）

◆申込方法

KUGS 高大接続プログラムポータルサイトに登録後、マイページの「カレンダー」からお申し込み下さい。

<https://kugspro.adm.kanazawa-u.ac.jp>

締め切り：開催日の3日前まで

◆主催・お問い合わせ先

金沢大学 高大接続コア・センター
kugspro@adm.kanazawa-u.ac.jp

過去のリーディングセミナーの様子は、こちらからご覧いただけます。



2023年3月下旬

梨木香歩（2020）『ほんとうのリーダーのみつげかた 増補版』岩波現代文庫

非常時というかけ声のもと、みんなと同じでなくてはいけないという圧力が強くなっています。息苦しさが増すなかで、強そうなひとの意見に流されてしまうことって、ありませんか？ でも、あなたがいちばん耳を傾けるべき存在は、じつは、もっと身近なところにいるのです。あなたの最強のチームをつくるために、そのひとを探しに出かけよう。

大栗博司（2021）『探究する精神：職業としての基礎科学』幻冬舎

自然界の真理の発見を目的とする基礎科学は、応用科学と比べて「役に立たない研究」と言われる。しかし歴史上、人類に大きな恩恵をもたらした発見の多くが、一見すると役に立たない研究から生まれている。そしてそのような真に価値ある研究の原動力となるのが、自分が面白いと思うことを真剣に考え抜く「探究心」だ——世界で活躍する物理学者が、少年時代の本との出会いから武者修行の日々、若手研究者の育成にも尽力する現在までの半生を振り返る。これから学問を志す人、生涯学び続けたいすべての人に贈る一冊。



2023年8月下旬

山口慎太郎（2019）『「家族の幸せ」の経済学：データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』

光文社新書

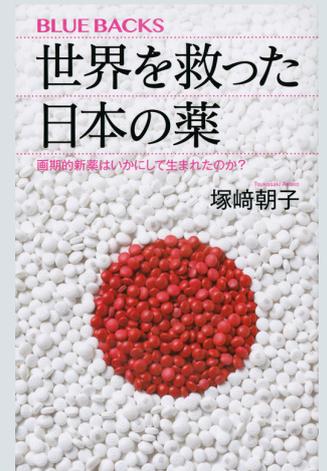
「帝王切開なんかしたら落ち着きのない子に育つ」「赤ちゃんには母乳が一番。愛情たっぷりですぐよく育つ」「3歳までは母親がつきっきりで子育てすべき。子どもを求めてる」出産や子育ては、このようなエビデンス（科学的根拠）を一切無視した「思い込み」が幅をきかせている。その思い込みに基づく「助言」や「指導」をしてくれる人もいる。親身になってくれる人はありがたい。独特の説得力もあるだろう。しかし、間違っていることを、あなたやその家族が取り入れる必要はまったくない。こういうとき、経済学的手法は役に立つ。人々の意思決定、そして行動を分析する学問だからだ。その研究の最先端を、気鋭の経済学者がわかりやすく案内する。

全卓樹（2020）『銀河の片隅で科学夜話：物理学者が語る、すばらしく不思議で美しいこの世界の小さな驚異』朝日出版社

流れ星はどこから来る？宇宙の中心にすまうブラックホール、真空の発見、じゃんけん必勝法と民主主義の数理、世論を決めるのは17%の少数者？忘れられた夢を見る技術、反乱を起こす奴隷アリ、銀河を渡る蝶、理論物理学者、とっておきの22話。

塚崎朝子（2018）『世界を救った日本の薬：画期的新薬はいかにして生まれたのか？』講談社ブルーバックス

がん治療に革命をもたらす「免疫チェックポイント阻害薬」、新型インフルエンザやエボラ出血熱に対抗できる抗ウイルス薬、がん治療の「魔法の弾丸」ともいえる分子標的治療薬など、日本人研究者が関与した「画期的新薬」が続々と誕生している。彼らはなぜ偉業を成すことができたのか。地を這うような苦闘の末に舞い降りた幸運の物語。



2024年3月下旬

伊藤亜聖（2020）『デジタル化する新興国：先進国を超えるか、監視社会の到来か』中公新書

デジタル技術の進化は、新興国・途上国の姿を劇的に変えつつある。中国、インド、東南アジアやアフリカ諸国は、今や最先端技術の「実験場」と化し、決済サービスやWeChatなどのスーパーアプリでは先進国を凌駕する。一方、雇用の悪化や、中国が輸出する監視システムによる国家の取り締まり強化など、負の側面も懸念される。技術が増幅する新興国の「可能性とリスク」は世界に何ををもたらすか。日本がとるべき戦略とは。

中川毅（2017）『人類と気候の10万年史』講談社ブルーバックス

福井県・水月湖に堆積する「年縞」。何万年も前の出来事を年輪のように1年刻みで記録した地層で、現在、年代測定の世界標準となっている。その年縞が明らかにしたのが、現代の温暖化を遥かにしのぐ「激変する気候」だった。人類は誕生から20万年、そのほとんどを現代とはまるで似ていない、気候激変の時代を生き延びてきたのだ。過去の詳細な記録から気候変動のメカニズムに迫り、人類史のスケールで現代を見つめ直します。

川嶋みどり（2012）『看護の力』岩波新書

人間誰もが持つ自然に治る力を引き出すこと。著者はこれこそが看護の営みの原点という。美味しく食べて、気持ちよく清潔に過ごし、ぐっすりと眠れるように……人間らしく生きる普通の暮らしを整えるケアとは何か。胃瘻や床ずれ対応のヒントに「下の世話」や代用入浴の心得など。現役看護師として60年、その心と技の真髄。



※いずれも2023年6月時点での予定です。詳細は、KUGS ポータルサイトより、ご確認ください。

※上記の紹介文は、出版社が提供しているものを掲載しています。